

1. 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済（内閣府「月例経済報告」[2025年3月]）

景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している

※ 2024年8月以降、景気判断に変化なし

個人消費 ※（ ）内は、2024年12月以降の判断変化

- ・一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる（変化なし）

企業活動

- ・生産は、横ばいとなっている（変化なし）
- ・業況判断は、改善している（変化なし）
- ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる（変化なし）

◆ 和歌山県経済 ◆

和歌山県経済は、総じて弱さが見られるも
個人消費に持ち直しの兆しが見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額（2月）は、4か月連続で前年を上回った
- ・新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、2か月連続で前年を上回った
- ・新設住宅着工戸数（2月）は、2か月ぶりに前年を上回った

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値、1月）は、2か月ぶりに上昇した
- ・公共工事請負金額は、前年4月～2月累計で前年同期比4.3%減となっている
- ・TDB景気DI（2月）は、2か月ぶりに上昇した

◆ 大阪府経済 ◆

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額は、増勢基調を維持するも、増加の勢いは鈍化
- ・新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、2か月連続で前年を上回った
- ・新設住宅着工戸数（2月）は、4か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値）は、一進一退の状況にある
- ・公共工事請負金額は、前年4月～2月累計で前年同期比6.9%増となっている
- ・TDB景気DIは、長らく横ばい圏で推移している

2. 経済指標で見る「和歌山県経済」

和歌山県経済は、総じて弱さが見られるも
個人消費に持ち直しの兆しが見られる

和歌山県に関する経済指標の概況（2月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（2月）は、4か月連続で前年を下回った。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、2か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（2月）は、2か月ぶりに前年を上回った。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値、1月）は、2か月ぶりに上昇した。
- 公共工事請負金額は、前年4月～2月累計で前年同期比4.3%減となっている。
- TDB景気DI（2月）は、2か月ぶりに上昇した。

《その他》

- 消費者物価指数（和歌山市、2月）は、コアコアCPIが2か月連続で上昇。
- 有効求人倍率（2月）は、前月から0.02ポイント下降。
- 家計消費支出（除く住居等、1月）は、4か月連続で前年を上回った。

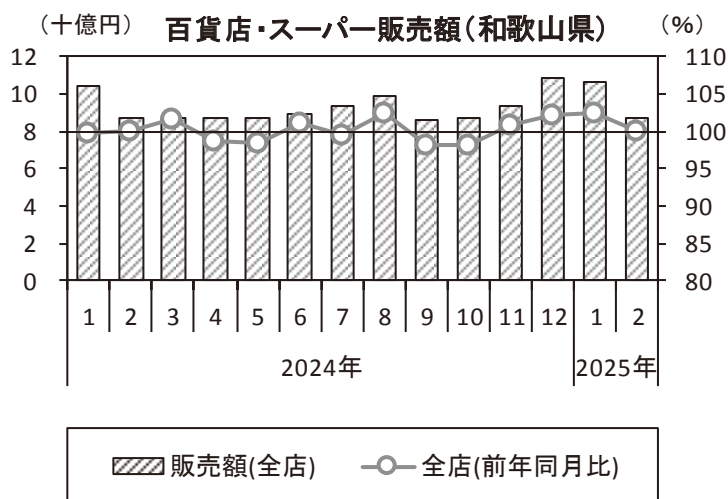
和歌山県の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2024年												2025年	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
個人消費	百貨店・スーパー販売額	●	—	○	●	●	○	●	○	●	●	○	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	●	○	○
	新設住宅着工戸数	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	○	○	●	○
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	●	○	●	●	○	○	○	●	○	○	○	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	○	●	○	○	●	○	●	○	○	○	●	○	
	公共工事請負金額	○	○	●	●	○	●	○	○	○	●	●	●	●	●
	TDB景気DI ※前月比	●	—	○	○	●	●	●	○	●	○	●	○	●	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	○	●	○	○	○	●	○	○	●	○	●	●	○	○
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	●	●	●	●	●	—	○	○	—	—	○	○	—	●

(注) ○：上昇(増加) —：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

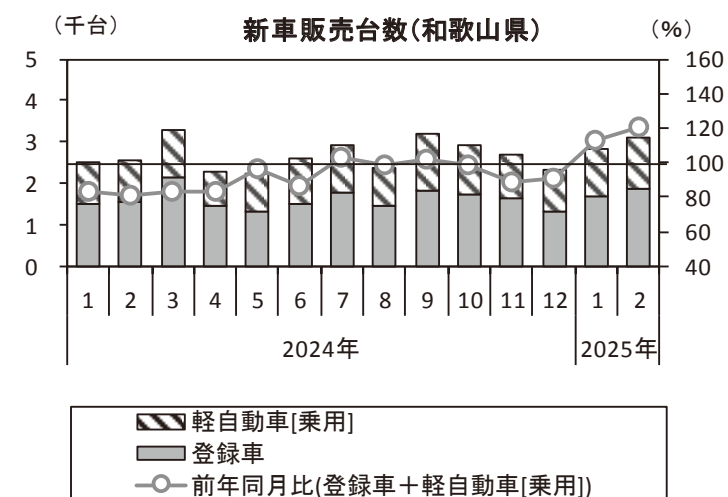
百貨店・スーパー販売額（2月）は、前年がうるう年であったことから、営業日数が1日少なかったにも関わらず、前年同月比0.1%増となり、4か月連続で前年を上回った。県内ただ一つの百貨店である近鉄百貨店和歌山店の販売額（2月）が、前年同月比1.3%減となっていることからスーパー販売額は前年同月を上回った模様。食品価格の上昇もあり、昨年11月以降、スーパー販売額が前年同月を上回る水準で推移している。ただし、食料品の価格上昇は継続しており、家計の節約志向の強まりが懸念される。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

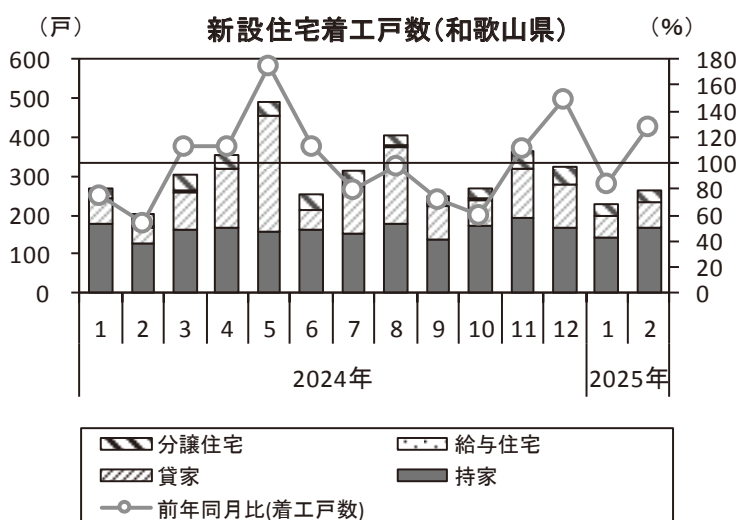
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、前年同月比20.3%増となり、2か月連続で前年を上回った。登録車、軽乗用車ともに前年同月比20%前後の増加となっている。前年同月は、一部自動車メーカーによる認証不正問題で販売台数が大きく落ち込んでおり、今回はその反動増が現れた。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（2月）は、前年同月比28.8%増（2か月ぶりに前年を上回る）。前年7月以降、着工戸数は減少傾向にあったが、足下では持ち直しの動きも見られる。直近6か月間（前年9月～2月）の累計着工戸数を地域別に見ると、和歌山市で前年同期比11.1%減、海南市が38.9%減、橋本市が59.2%減、田辺市18.3%、新宮市32.6%減となる一方で、岩出市は86.1%増となっている。

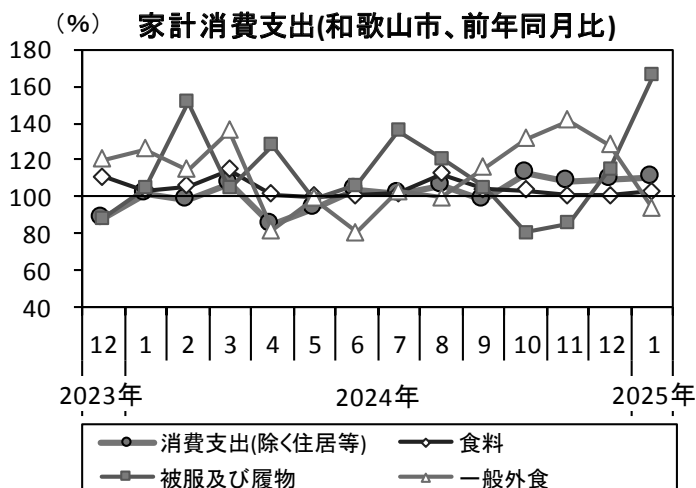


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、1月）は、前年同月比10.9%増となり、4か月連続で前年を上回った。外食支出が5か月ぶりに前年を下回る一方で、野菜価格・米価格の高騰もあり、食料支出全体では8か月連続で前年を上回った。政府による電気・ガス価格激変緩和対策の補助額減少や気温の低下もあり、電気代が増加。被服及び履物への支出も増えた。

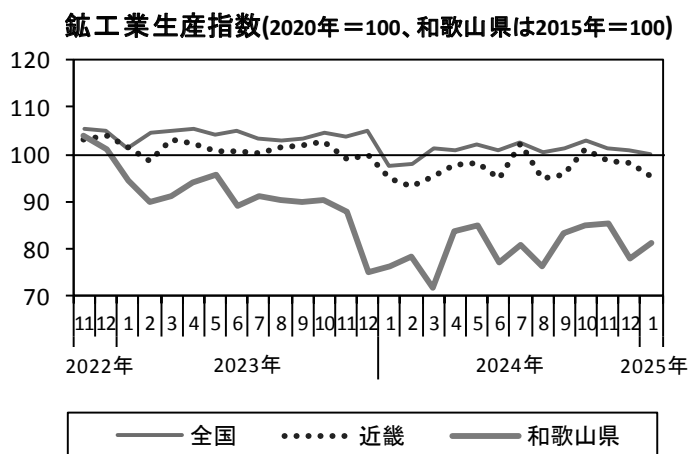
※調査対象の世帯が約90と少ない点に留意



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

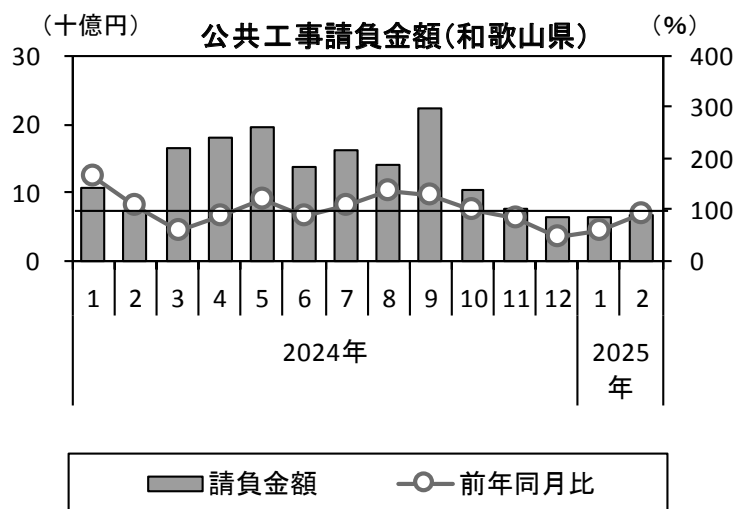
鉱工業生産指数（1月）は81.2となっており、2か月ぶりに上昇した。県内主要業種である「はん用機械工業」の生産指数が約2年半ぶりの高水準まで上昇した。ただし、県内製造業の生産状況は「一進一退」の状況にある。2023年10月にENEOS和歌山製油所が操業を停止したことで、化学工業、石油・石炭製品工業の生産指数は低い水準にあり、主力業種である鉄鋼業、生産用機工業についても指数が低迷している。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（2月）は、前年同月比8.1%減となり、5か月連続で前年を下回った。2021年度以降、減少傾向にある請負金額だが、24年度に関しても、前年4月～2月累計の請負金額が前年同期比4.3%減となっている。全県では減少基調にある請負金額（前年4月～2月累計）だが、地域別では和歌山地区で前年同期比15.0%増、岩出地区で同3.1%増、湯浅地区で同9.8%増、新宮地区で同3.4%増となっている。その一方で、前年同時期に新庁舎建設関連の大型工事が見られた御坊地区、田辺地区では請負金額が減少している。



(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

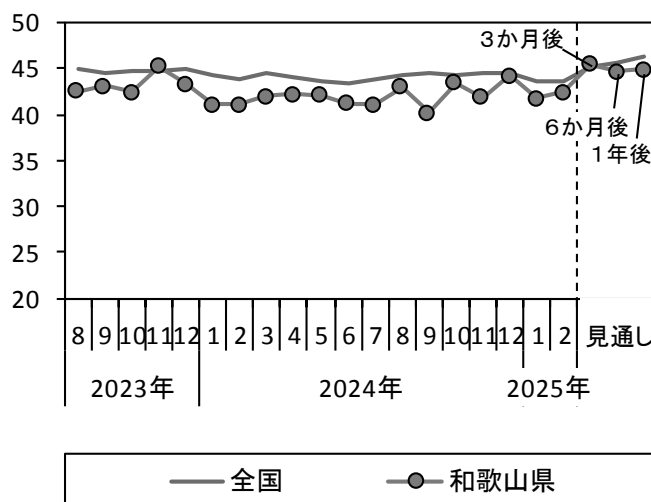
景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

2月の景気DIは、2か月ぶりに上昇した。建設業の景気DIが2か月連続で下降する一方、製造業や卸売業、サービス業でDIが上昇した。

このような状況の中で、帝国データバンクは、「県内企業の価格転嫁は少しずつ進みつつあるものの、賃上げ対応等もあり経費は増加傾向の会社が多い」としている。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)

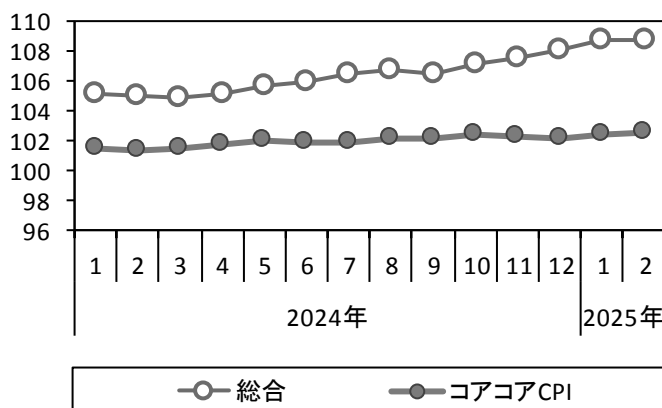


(資料)(株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(和歌山市、2月)は、総合が5か月ぶりに下降する中、コアコアCPI(変動の大きい食料・エネルギーを除く物価指数)は2か月連続で上昇した。政府の電気・ガス代の負担軽減策が1月使用分から再開したことで、エネルギー価格が大きく下降した。ただし、生鮮食品を除く食料価格は上昇傾向が続いている。

消費者物価指数(和歌山市、2020年=100)



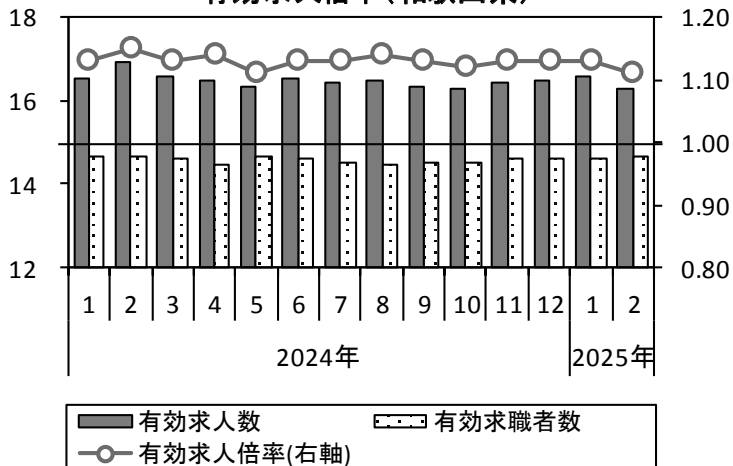
(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(2月)は、前月から0.02ポイント下降。有効求人数が4か月ぶりに減少した。新規求人数も2か月連続で減少している。業種別では、卸売業・小売業、生活関連サービス業・娯楽業、宿泊業などで新規求人数が前年同月に比べて減少している。

このような状況について、和歌山労働局では、「雇用情勢は、求人が求職を上回る状況が続いており、緩やかに持ち直しの動きがみられるが、求人の一部に足踏み感がある。引き続き、物価上昇等が雇用と与える影響に注意する必要がある」と判断している。

(千人) 有効求人倍率(和歌山県)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

3. 経済指標で見る「大阪府経済」

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

大阪府に関する経済指標の概況（2月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額は、増勢基調を維持するも、増加の勢いは鈍化。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、2か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（2月）は、4か月連続で前年を上回った。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値）は、一進一退の状況にある。
- 公共工事請負金額は、前年4月～2月累計で前年同期比6.9%増となっている。
- TDB景気DIは、長らく横ばい圏で推移している。

《その他》

- 消費者物価指数（大阪市、2月）は、コアコアCPIが2か月ぶりに上昇。
- 有効求人倍率（2月）は、3か月ぶりに下降。新規求人数が減少傾向にある。
- 家計消費支出（除く住居等、1月）は、3か月連続で前年を上回った。

大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

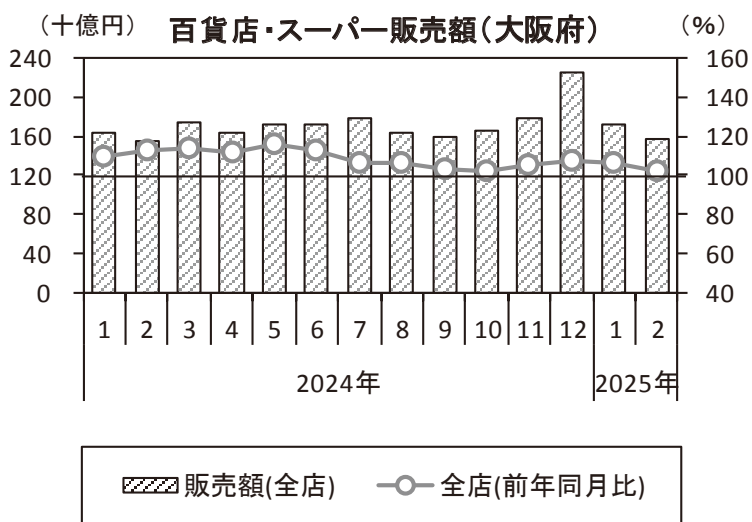
		2024年												2025年	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	●	●	●	●	●	●	○	●	○	○	○	●	○	○
	新設住宅着工戸数	●	●	●	○	○	●	●	○	●	●	○	○	○	○
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	●	○	●	○	●	○	●	○	○	●	○	●	
	公共工事請負金額	●	●	●	○	●	○	●	○	●	○	●	●	○	○
	TDB景気DI ※前月比	●	●	○	●	●	●	○	—	○	●	○	○	●	●
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○	—	—	—	○
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	—

(注) ○：上昇(増加) —：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額（2月）は、前年同月比1.7%増となり、3年5か月連続で前年を上回った。前年がうるう年であったことから、営業日数が1日少なかったにも関わらず、増勢を維持した。業態別では、百貨店の販売額が前年同月比2.5%増。スーパー販売額が同0.7%増となっている。百貨店に関しては、春節休暇前倒し（1/28～2/4、前年は2/10～2/17）に伴う訪日客による免税売上の減少、一部店舗で改装に向けた売り場閉鎖の影響もあり、販売額の増加率は鈍化した。

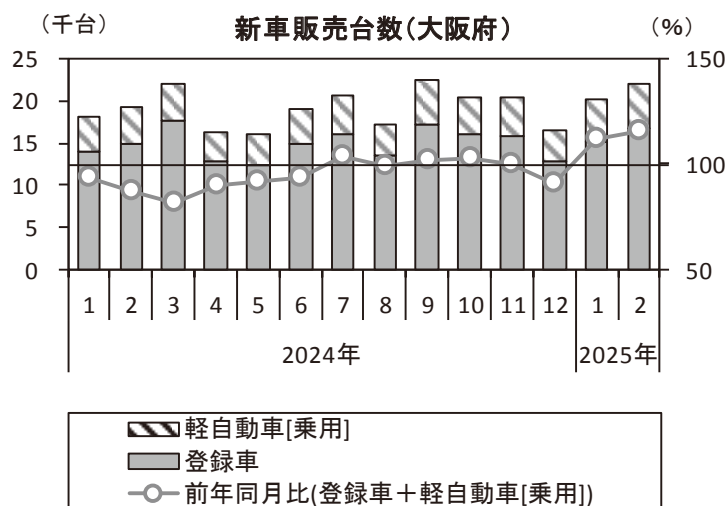
また、スーパーの販売額は、前年同月比0.7%増とほぼ前年並みの水準となっており、増勢基調に変化が見られる。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

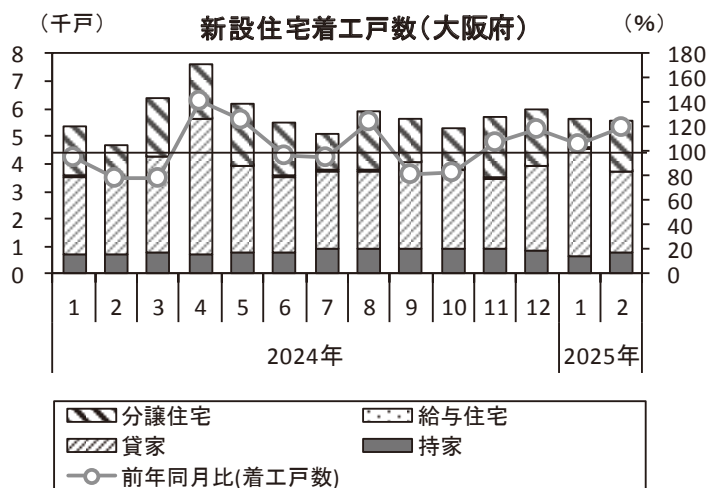
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、2月）は、前年同月比15.4%増となり、2か月連続で前年を上回った。登録車は同12.9%増、軽乗用車は同24.1%増となっている。前年同月は、一部自動車メーカーによる認証不正問題で販売台数が大きく落ち込んでおり、今回はその反動増が現れた。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（2月）は、前年同月比19.2%増となり、4か月連続で前年を上回った。2024年合計での着工戸数は前年比0.1%減と、ほぼ前年並みの水準を維持している。足下では、「分譲住宅」の着工戸数が減少傾向にある一方で、「貸家」の着工戸数が増加傾向にある。全国、近畿においても「分譲住宅」は減少傾向にあり、その要因としては、地価や建設コストの上昇に伴う需要低迷を挙げることができる。

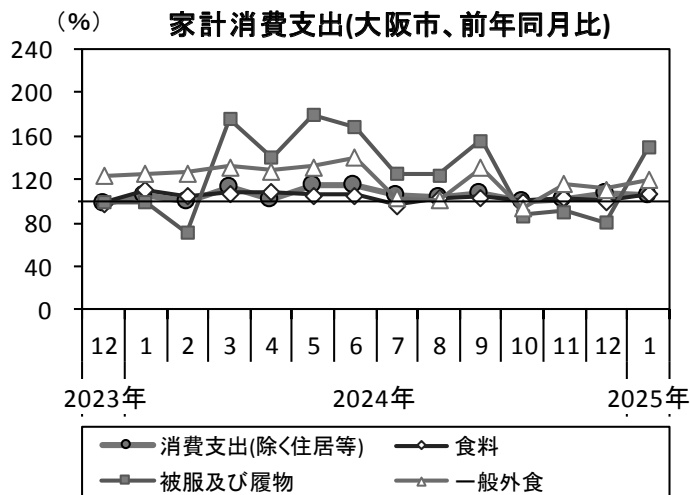


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、1月）は、前年同月比5.7%増となり、3か月連続で前年を上回った。生鮮食品、米等の食品価格の高騰や外食機会の増加などを背景に、食料支出が増加傾向にある。政府による電気・ガス価格激変緩和対策の補助額減少や気温の低下もあり、電気代が増加。被服及び履物への支出も増えた。また、テレビ等の教養娯楽用耐久財、教養娯楽用品に対する支出額も増加している。

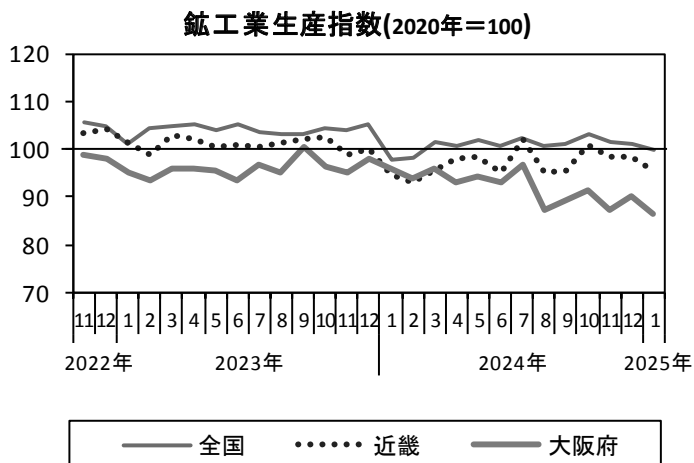
※調査対象の世帯が約120と少ない点に留意



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

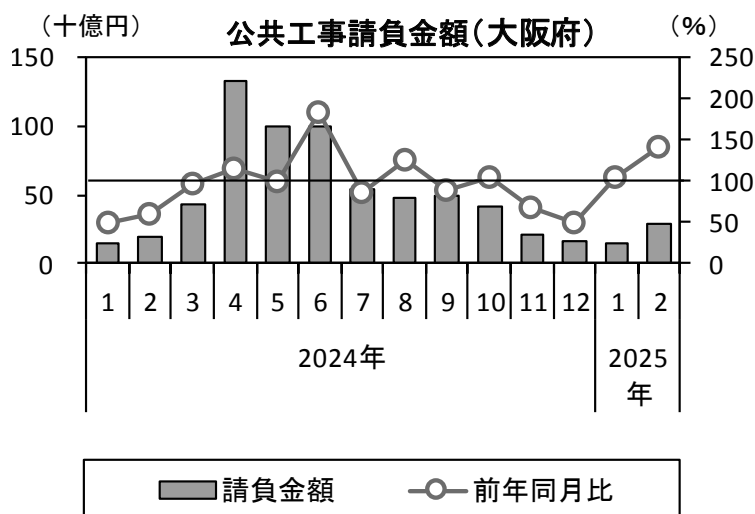
鉱工業生産指数（1月）は、前月から3.5ポイントの下降となった。このところ、生産指数は一進一退の状況にある。ビール・発泡酒等の食料品工業で生産指数が上昇する一方、府内主要業種である化学工業（医薬品・合成アセトン等）、生産用機械工業（超硬工具、ショベル系掘削機械等）、電気機械工業（セパレート型エアコン、リチウムイオン電池等）、輸送機械工業（鉄道車両等）の生産指数は低迷している。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（2月）は、前年同月比41.7%増となり、2か月連続で前年を上回った。前年4月～2月累計での請負金額は前年同期比6.9%増と好調で、2021年度以降の増加基調が継続している。発注者別に前年4月～2月累計での請負金額を見ると、国、府内市町村発注の請負金額が前年同期を上回っている。



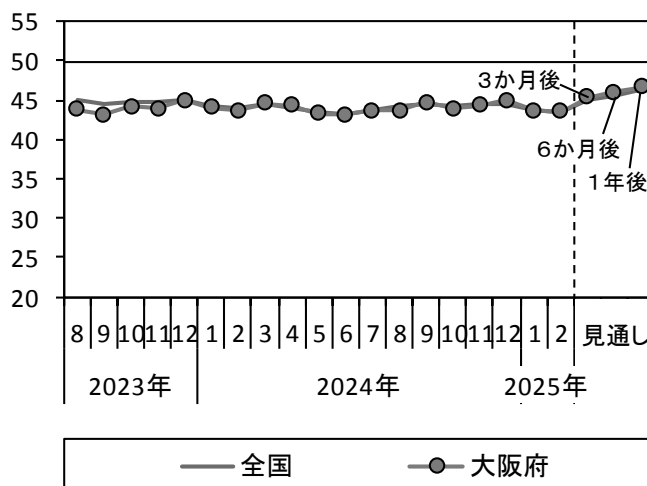
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

2月の景気DIは前月から0.1ポイント下降(下降は2か月連続)。景気DIは長らく横ばい圏で推移している。このような状況について、帝国データバンクは、『万博による特需』といった声も聞かれるようになる一方で、先行きに関しては、日本国内政治の不安定さ、米トランプ政権の関税措置等への警戒感が高まり、中小企業にとっては賃上げ負担感も強く、府内景気は再び停滞する可能性が出てきた」としている。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)

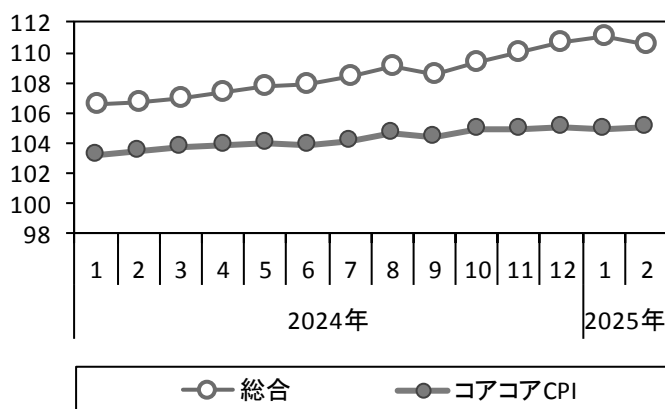


(資料)(株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(大阪市、2月)について、総合が5か月ぶりに下降する中、コアコアCPI(変動の大きい食料・エネルギーを除く物価指数)は2か月ぶりに上昇した。政府の電気・ガス代の負担軽減策が1月使用分から再開したことで、エネルギー価格が大きく下降した。ただし、生鮮食品を除く食料価格は上昇傾向が続いている。

消費者物価指数(大阪市、2020年=100)

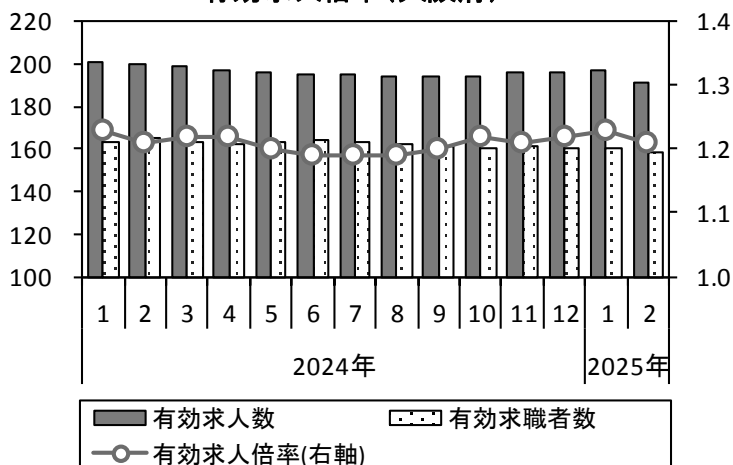


(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(2月)は、前月から0.02ポイント下降し1.21倍(下降は3か月ぶり)。有効求人数が6か月ぶりに減少した。新規求人数は2年6か月連続で前年を下回っており、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、建設業、運輸業など幅広い業種で新規求人数が減少傾向にある。このような状況について、大阪労働局は「現下の雇用失業情勢は、改善の動きが弱まっている」と判断している。

(千人) 有効求人倍率(大阪府)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」